

さわやかトカラ情報

南北160km

「心をつなぎ 気概に満ちた」十島の教育

十島村教育委員会
〒892-0822
鹿児島市泉町13番13号
TEL 099-227-9771



【シリーズ 新聞に投稿】
(令和2年4月12日南日本新聞「若い目」掲載)
小宝島小学校1年 三浦悠慎

ぼくのシャツとゆうわぎをきて、おかあさんと
いもうとががっこうにいきました。ぼく
のしきがはじまるまで、すくどきどき
とせんだいだけでした。きんちゅうの
なはくしゆわつてしまひました。す
もなはくしゆわつてしまひました。す
がっこうのおともだちとせんせいた
おにいをしてくれました。おにい
がっこうのおともだちとせんせいた
まくん、いよちのひとたちには、「ゆ
くさん、いよちのひとたちには、「ゆ
てくれなした。」「いよちのひと
んかできなした。」「いよちのひと
つきは、いよちのひとたちには、「ゆ
でも、いよちのひとたちには、「ゆ
しあせなした。」「いよちのひと
はすだなした。」「いよちのひと
うよみだなした。」「いよちのひと
うがくしきをしきをしきをしきをし



(令和2年4月17日 南日本新聞「ひろば」掲載)
宝島小学校6年 松下真奈

私は4月に宝島小学校に転校して来ました。前の小学校には、たくさんの友だちがいました。その中でも親友と呼べる友だちがいました。2年生の途中で転入してきた女の子です。初めは不安そうでした。私のとなりの席になり、いろいろな話をするうちに、なんでも話せる親友になりました。
宝島にきた初めの頃の不安な気持ち、今はありません。宝島の友だちもすぐ増え、何よりも離れていても心がつながっている友だちがいるからです。宝島に来て、すぐにお手紙を出しました。「親友に早く届くといいな」と思います。



(令和2年4月25日 南日本新聞「若い目」掲載)
諏訪之瀬中学校3年 長谷川宇宙

3月下旬に諏訪之瀬島に来た。口之島をはなれ、さびしい気持ちと不安があった。新しい島民の方と仲良くできるかも不安だった。日がたつにつれ、あいさつをしてくれたり、気軽に話しかけてくれたりして、ちよつとずつ距離が縮まってきた。私は諏訪之瀬島でがんばりたいことが二つある。一つ目は最高学年として、みんなを引っ張っていくことだ。口之島でも生徒会長を半年間していた。経験を生かし、みんなが笑顔でいられるような学校にしたい。
二つ目は勉強。今年受験がある。志望校はまだ決まっていないが、努力を惜しまず精いっぱいがんばりたい。どの教科でも、分らないことがあれば確実に調べ、先生に聞くことを大事にしたい。私の将来の夢は、英語教師が警察官だ。私が英語の楽しさを学んだように、子供に英語の楽しさを教えたい。警察官は、一人でも多くの命を守りたいからだ。大人になったら、今よりもっと守るべきもの、大切な人ができると思う。その人を守れるような優しく強い大人になりたい。
諏訪之瀬島の生活は、その第一歩だ。一日一日を大切に、より多くのことができるようになっていきたい。

シリーズ・・・十島村で学ぶ
休業だからこそできた事
口之島小学校 5年 肥後 海翔

ぼくは、2年前に口之島に引っこして来ました。その時、ぼくは、まだ2年生でした。すぐに島になれて、楽しい学校生活を送っていました。しかし、「コロナウィルス」の感せんが、世界に広がりを見せたために、りん時休業になりました。そして、3月3日から自宅ですごすことになりました。午前中は、課題に取り組み、午後は、祖父たちの牛のお世話の手伝いをしました。牛小屋では、「ふんかき」や「えさやり」「草集め」など大変な仕事がありました。一生けん命手伝ったので、みんよこんでくれました。とてもうれしかったです。それから、もう一つが頑張ったことがあります。なわとびです。二重とびの練習をしたら、15回もとべるようになりました。お姉ちゃんが、ほめてくれたので、とてもうれしかったです。休業だからこそ、お手伝いがたくさんできたり二重とびができたんだと思います。休業は、めったにない事なので、びっくりしましたが、この事で、学校がどんなに大切かわかりました。



【小宝島小・中学校からのメッセージ】
教諭 坂本 剛

小宝島小・中学校に赴任して1年間過ぎました。妻と子ども2人の4人で小宝島にきました。病院が無い、店が無い、ガソリンスタンドが無いと、今までの生活とは全く異なる環境での生活に不安を覚えました。実際に暮らしてみると特に不自由なく暮らすことができている。今までの生活では、長距離通勤ということもあり、子どもが寝ている時間に家を出て、帰ってきたらもう寝ているということもありましたが、ここの生活では、毎朝一緒に朝ご飯を食べ、夕方に一緒に遊べる時間も取れることもあり、家族で過ごせる時間が増え、とても充実させることができました。
自分の仕事に関しても、初めてのことで、初めの一輪車指導に始まり、水泳指導やダンス指導や剣道指導など非常に苦勞はしましたが、子どもたちとともに楽しく授業を行うことができました。また、極小規模校という利点を活かし、個別指導を充実して行うことができました。今までの生活では、個に合った指導を行うにも限度があったのですが、十島ではそれが可能なので、自分自身の指導力向上にもつなげることができました。これから十島の強みを活かして、指導に励んでいきます。
『教職員仲間であるあなた』への 私からのメッセージ
島と島とで地理的には離れてはいますが、子どもたちはもちろん、教職員も『十島は1つ』の精神で心をつないで、お互いに助け合いながら本年度もみんなががんばっていきましょう。

「5月・・・新しい生活様式」 十島村教育長 有村 孝一

村では、学校を4月22日から5月6日までを再び休校としました。新学年新学期が始まったばかりでしたが、国の緊急事態宣言を受けてのことです。1月の発生以来みんなで気を付けていたのですが、このような事態になったことは、致し方ないのかなと思うことでした。

もちろん村では、「十島村新型コロナウイルス感染症対策本部」を立ち上げ、これまで7回の会議を開催してきました。村は、レントゲン検診便を利用した視察等もすべて取りやめ、役場でも7割から8割の接触の削減のため、ビニールシートで接客の窓口に覆いをしてそれを挟んで対応したり、向かい合った職員の机の間に飛沫防止用の衝立を置いたりしています。

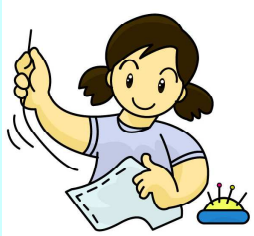
5月14日に国による緊急事態宣言は解除されました。しかしこれは、安全宣言ではありません。引き続きこれまで通りの対応をしていかななくてはなりません。そこで、出されたのが「新しい生活様式」です。今回のコロナウィルス感染症を受けて、自分自身の生活の在り方を見直し、今までとは違う生活の仕方に取り組んでいこうとするものです。

内容については、「外出はマスクをする。遊びに行くなら屋内より屋外を選ぶ」「人との間隔は、できるだけ2m(最低1m)空ける」「会話をする際は、可能な限り対面を避ける。」「家に帰ったらまず手や顔を洗う。できるだけすぐに着替える。シャワーを浴びる。」「手洗いは30秒程度かけて水と石けんで丁寧に洗う。」等々他にもまだまだありますが、これからの感染症対策として、皆さんで心がけていかななくてはなりません。

学校では、マスクの着用はもちろん、三密を防ぐ工夫を凝らしながら教育活動に日々頑張っています。子どもたちに会ったら、頑張っているねと声をかけていただけますと、大変ありがたいです。よろしくお願いたします。そのような中、諏訪之瀬島診療所の伊東千香子さんが、布のマスクを200枚程手作りされて、村内の児童生徒全員にプレゼントして

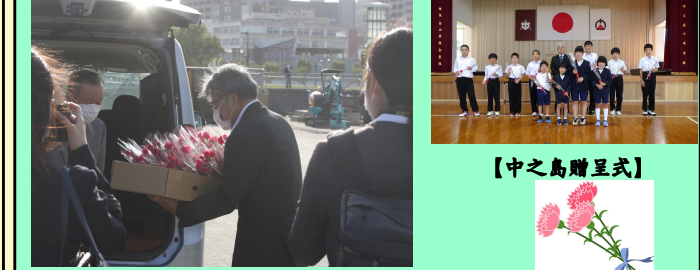
くださいました。約1か月ほどかかったそうでありました。

仕事の合間に疲れているにも関わらず、子どもたちのためにこの思いでつくられたと思います。頭の下がる思いです。ありがとうございました。村からも感謝状を差し上げました。



とにかく、終息するまではウィルスとの長い戦いになると思います。皆さんとともに心を合わせて頑張りましょう。

今月の「十島パワーにパチリ！」



【中之島贈呈式】
【5月8日(金) 三島フェリー乗場にて贈呈式】

今年も「母の日」に向けて、吉田町の田知行義久さんが、十島と三島の子どもたちにカーネーションをくださいました。そして、島の子どもたちは、「おかあさん、いつもありがとう」という気持ちを込めて、母親や寮母さんそして里親さんにカーネーションを贈りました。最近、いただいたカーネーションを遠くにいるお母さんにメールで、画像を送る山海留学生の子どももいると話を聞いています。何事にも感謝できる子どもたちが育つ環境を整えてくださっている島民の皆様や周囲の方々のおかげです。ありがとうございます。

子供のうち
四月二十四日 南日本新聞掲載

君が突るの
いつもなりの
見守って待って
今か今かと待って
君が突った時に
君をぎゅつとつか
おなべのお風呂
から大きな口を
あんなにうれし
ぼくの自慢の
スナックエド
(藤澤 優真)